



イルカになる

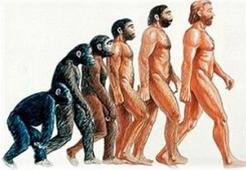
永田円了

Being rather than Having

人間は脳の機能のわずか10%、イルカは、20% 使っているという。この違いは何だろうか。人は道具に頼り、イルカは自分磨きをしてきたからである。特にイルカのエコローケーション（反響定位）、音波で自分の位置を仲間に知らせる機能は目をみはるものである。

道具を磨いて便利に使ってきた人間、せっかく本来備わっている能力をもっとイルカのように使えるようにならないのだろうか。そのためには、知性をもっともっと磨く必要がある。

知能と知性



知能とは、答のある問いに早く正しく答を出す能力のことである。IQ で表される数値の高さ、受験競争に勝ちぬく力、効率よく処理する能力を知能と呼ぶ。

一方、**知性とは**、答のない問いに対し、その問いを問い続ける能力のことである。なぜこの宇宙が生まれたのか。命はいったいどこから生まれて来たのか。心とは何か、など、知性には未知の事柄に対する畏敬の念が含まれる。

知能は知性に向かって言う。「知性よ、おまえがどれだけ頑張っても、いい学校、いい会社には入れない。俺は出世して社会に認めてもらいたいんだ!」。知性は言う。「知能よ、お前のやってることは、想定内のことをただ効率よく処理し、人と競争することばかり考えているのだろう」。

ではもし知能が、想定外の答のない問いに直面したとき、何が起ころうだろうか。

割り切り vs. 腹決め

知能が想定外の問題に直面したとき、起ころうする現象は「割り切り」である。はやく楽になりたいと思うからである。まず問題を単純化し、二文法的に考え、心が早く楽になる選択肢を選び、その選択肢を正当化する理屈をひねり出す。これでは自分を磨くことにはならない。



一方、知性が同じ想定外の問題に対してすることは、「腹決め」である。「これで行くしかない、これでいこう!」という態度である。「割り切り」が、精神の弱さに流された意志決定だとするなら、「腹決め」は名の通り、悩んだ末の能動的な意志決定である。答のない問題にぶつかったとき、人は悩む。悩み考え尽くす過程で精神が耕され、知性が磨かれる。

これから必要とされる人材は、前例のない事態に的確に取り組むことのできる人である。過去問題を効率よく解く能力ではなく、その場で考え“腹決め”した行動を起こす知性、この考える知性と行動力のみが、これからの世界を救う力になると思う。そのためには、磨くべきは自分自身、道具ではない。

<事例 DVD 等>

映画「ルーシー」/脳の機能：人間は10%、イルカは20%
 動的平衡 / 福岡伸一
 スイッチインタビュー / 福岡伸一 × 坂本龍一 / 破壊と創造
 河合隼雄 / 日本昔話「炭焼き五郎」 / 破壊の後に、次の行動が、
 人工知能 AI 「健康になりたければ、病院を減らせ」
 クローズアップ現代 / よけいな介護が、健康の妨げに、
 映画「レイ」 / あえて助けない母親の愛情
 一人で岸壁を命綱なしで登る / ひとがイルカになる、Free Solo
 NHK、地震の予知はできない
 映画「アポロ13号」 / 予測不可能な事態に立ち向かう管制官の知性
 歌・「ムーンリバー」 / ティファニーで朝食より、



NASAの主席飛行管制官、ジーン・克蘭ツ

円了のホームページ：www.enryo.jp